

庄内砂丘地の

園芸作物と施肥基準

山形県園芸試験場砂丘分場

若松 幸夫

日本海岸には砂丘の発達する所が多いが、山形県の海岸線約65kmのうち、長さ約30km、巾2~3kmにわたって約8,000haの砂丘が広がっている。

この庄内砂丘は起伏が少なく、植林もよく行われている。そこには、もはや荒あらしい砂丘の様相はみられず、美事な砂丘畑が松林の間に点在している。

この砂丘は、今から200年前に黒松の砂防林が完成されたので、早くから耕地化され、農耕地としての利用率は全国一である。

ここ庄内地方は、庄内米の産地として全国的に知られている稲作単作地帯である。したがってこの砂丘地は、水稻の副次部門として発達してきた。

最近道路整備や輸送関係の発達に加え、農業情勢の変化等によって、園芸作物に対する意識に目ざめ、昭和42年から経済連が中心となり、地域ぐるみで園芸作物の主産地形成に努力している。

良品を大量に、しかも継続的に出荷するということが、産地づくりには極めて重要なことであるが、ここでは、品種の統一はもちろんのこと、施

庄内地方の野菜施肥基準

作物名	目標収量	基準施肥量			10アール当現物量			
		施肥区分	N	P	K	肥料名	元肥	追肥
スイカ	4,000 kg ~ 5,000	元肥	8-10 ^{kg}	6-8 ^{kg}	6-8 ^{kg}	CDU複合燐加安S682号	60 ^{kg}	kg
		追肥	2-3		2	燐硝安加里S604号		
		計	10-13	6-8	8-10	苦土石灰		
メロン	1,500 ~ 2,000	元肥	10-12	8-10	8-10	CDU複合燐加安S682号	60	20
		追肥	3		2	燐硝安加里S604号		
		計	13-16	8-10	10-12	苦土石灰		
イチゴ	800 ~ 1,000	元肥	18-21	15-20	15-20	CDU複合燐加安S682号	120	50
		追肥	7-9		5	燐硝安加里S604号		
		計	25-30	15-20	20-25	苦土石灰		
キュウリ	(ハウス) 8,000 ~10,000	元肥	22-25	16-18	18-20	CDU複合燐加安S682号	150	
		追肥	10		7	液肥		
		計	32-35	16-18	25-27	苦土石灰		
トマト	(トンネル) 4,000 ~ 6,000	元肥	11-13	16-18	11-13	CDU複合燐加安S682号	70	
		追肥	10		7	液肥		
		計	22-23	16-18	18-20	苦土石灰		
ナス	(ハウス) 7,000 ~10,000	元肥	16-18	16-18	13-15	CDU複合燐加安S682号	110	
		追肥	8		7	液肥		
		計	24-26	16-18	20-22	苦土石灰		
ナス	4,000 ~ 5,000	元肥	22-24	18-20	18-20	CDU複合燐加安S602号	120	40
		追肥	6		4-5	燐硝安加里S604号		
		計	28-30	18-20	22-25	苦土石灰		

肥基準を設定して、農家の指導にあたっている。

そのなかで、緩効性、追肥の省力化ということもあり、試験栽培、展示圃の成績も良好なことからCDU複合燐加安S682号が採用され、普及されているので紹介する。

1: CDU化成肥料が採用されている作物

庄内地方における主産地形成上の主なる作目は、プリンスメロン、スイカ、ダイコン、イチゴ、長芋、長葱、トマト、キュウリ、ナス等であるが、そのなかで、6品目についてCDU化成が採用されている。その施肥基準は別表の通りである。

このほか、最近では簡易床土(ピートモス等の利用)が普及されてきているが、これらにもCDU化成が、本年度から採用されるようになった。

2. 果菜類にCDU化成を採用した

基本的な考え方

果菜類を栽培する場合、施肥法の基本的な考え方として次のように指導されている。

① 初期の生育は窒素過多をさけ、とくに燐酸、加里の吸収を順調にさせることに努め、充実した体をつくる。

② 着果後から果実肥大期にかけては、すべての要素が平均に、しかも能率よく多く吸収させ増収をはかる。

③ 果実の成熟時期に近づくに従い、再びおちついた形で肥効が示され、なおよく持続させ、品質の向上に結びつける

④ それには深層を含めた肥料の施し方で、根の伸長にとまない肥効があらわれ、持続するようにする。またこの肥効経過を示す緩効性肥料を選び、果実肥大期の肥効増加には、かん水と液肥施用を計画的に実施する。

CDU化成肥料の導入は、昭和44年からであるが、収量の増大、塩類濃度障害防止、肥料施用法改善および肥効の持続性等について期待されている。